

本庄市
公園施設長寿命化計画

平成 3 0 年 3 月

埼玉県本庄市都市整備部都市計画課

1. 都市公園整備状況

(平成 30 年 3 月 26 日時点)

管理対象都市公園の数	管理対象都市公園の面積	一人当たり都市公園面積
139 (公園)	77.13 (ha)	9.8 (㎡)

2. 計画期間

〔2018 年度～2027 年度 (10 箇年) 〕

3. 計画対象公園

①種別別箇所数

街区	近隣	地区	総合	運動	広域	風致	動植	歴史	緩緑	都緑	緑道	合計
20	3	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	27

②選定理由

〔 計画対象公園は、都市公園のうち規模の大きく、優先度の高い 27 箇所とする。 〕

4. 計画対象公園施設

①対象公園施設数

園路広場	修景施設	休養施設	遊戯施設	運動施設	教養施設	便益施設
830	365	496	156	120	35	107

管理施設	災害応急対策施設	その他	合計
3,135	0	5	5,249

②これまでの維持管理状況

〔 これまでの維持管理状況は、指定管理者による週 1 回以上の巡視・点検と、市と指定管理者による年 3 回の合同点検を日常点検として実施している。これらの点検により危険箇所が発見された場合、緊急度の高いものから補修、更新を計画的に行ってきた。 〕

③選定理由

〔 多くの公園施設が処分制限期間を超える設置年数となっており、老朽化が著しい施設も幾つか見受けられる。これらの施設に対し、随時優先度の高いものから更新を行ってきたが、財政的な制約も大きく、経過年数の長い公園を中心に公園施設の老朽化が顕在化している。そこで、都市公園の快適で安全な利用を確保するため、占用物を除くすべての公園施設を対象に長寿命化対策を立案し、ライフサイクルコストの削減、補修及び更新費用の平準化並びに安全性の確保、機能の保全を図る。 〕

5. 健全度を把握するための点検調査結果の概要

点検調査実施時期 2017 年 8 月～2018 年 2 月

点検調査方法

公園施設：「公園施設長寿命化計画策定指針(案)」に示される健全度調査票（一般施設）」を基に、専門家（RCCM、2 級土木施工管理技士）による健全度の把握を行った。

遊戯施設：「遊具の安全に関する規準（JPFA-S:2014）」に示される遊戯施設の定期点検表を基に、公園施設製品安全管理士による健全度の把握を行った。

建築物：「公園施設長寿命化計画策定指針(案)」に示される健全度調査票（建築物）と健全度調査用チェックシートを基に、1 級建築士による健全度の把握を行った。

点検調査結果の概要

劣化診断による 4 段階の判定結果は、最も良好な状態である A 判定が 735 基（14.1％）、B 判定が 4,168 基（79.8％）、C 判定が 303 基（5.8％）、D 判定が 14 基（0.3％）であった（評価なし 2 基）。

6. 日常的な維持管理に関する基本的方針

維持保全（清掃・保守・修繕）と日常点検は、随時実施し公園施設の機能の保全と安全性を維持するとともに、施設の劣化や損傷を把握する。

日常的な維持管理は以下のような方針で実施していく。

- ・現状どおりの日常点検の実施
- ・点検結果に基づく修繕・改築・更新を実施していく。
- ・公園における植栽地の管理は、剪定、間伐、病虫害の防除など保全的な管理を中心に実施していく。
- ・これ以外にも、植栽地の特性に応じて特別な管理が必要な場合には、必要な費用を計上していくこととする。例えば、特定外来種の駆除や生物多様性の保全・向上等である。
- ・管理体制については、健全度調査結果から評価が高い施設が多かったことから、現状の体制で管理を行っていくこととし、健全度を確認する点検調査は、予防保全型管理の施設については 5 年ごとに実施していくこととする。

7. 公園施設の長寿命化のための基本方針

以下の方針で、公園施設上の寿命化を行っていく。

- ・現在使用中のものは、修繕、補修等を行い、使用目標期間を越えて使用できるようにする。
- ・今後も定期的な補修を行うことで、公園施設の長期間にわたる機能の発揮を目指す。
- ・予防保全型管理を行う施設については、今後も定期的に健全度調査を実施し状況の把握と補修について検討を行う。
- ・事後保全型管理を行う施設は、日常点検と維持保全（清掃・保守・修繕）で公園施設の機能の保全と安全性を確保する。また、日常点検で施設の劣化や破損を把握した場合、施設の修繕・更新を行う。

8. 都市公園別の健全度調査結果、長寿命化に向けた具体的対策、対策内容・時期等

※ 別添「公園施設長寿命化計画調書」（様式1「総括表」、様式2「都市公園別」、様式3「公園施設種類別現況」）による

9. 計画全体の長寿命化対策の実施効果

本計画での適切な長寿命化対策の実施により、公園施設の安全性、機能性の向上が図られるとともに、施設の延命化によりライフサイクルコストが単年度で年間 10,887 千円、10年間で108,868千円のライフサイクルコストが縮減できることとなった。